

「施し・施され・花が咲く」

広島県 東光寺住職 松岡真誠
とうこうじ まつおかしんせい

お布施の「布施」という言葉は、インドの言葉で「与える・施す」という意味の「ダーナ」を訳したものです。むさぼる心を離れ、自分の持ちものを惜しみなく他人に施し、与えることをいいます。お釈迦さまは、この「布施」を行うとき、『三輪空寂』の姿で勤めるようお示しです。「三輪空寂」の「三輪」とは三つの輪と書き、施す人、施しを受ける人、施されるものを指します。また「空寂」とは、空という字に寂しいと書き、とらわれの心から離れて清らかであるという意味です。

二年ほど前、千津さんとおつしやるお檀家さんのお宅にお参りした時のことです。よく整えられた仏壇に、毛糸を編んで作った色とりどりのたわしがお供えしてありました。私が「たくさんのたわし、すごいですねえ。」というと、千津さんは「コロナで、今は外へ出るのが難しくなったから、何にも出来なくなった。じつと家において、編み物ばかりしてるんですよ。」と笑っています。すると近くにいた娘さんが、「毛糸のたわしたくさんあるんだけれど少しもらって頂けますか?」と、苦笑しながらおつしやいました。私は「よろこんで頂戴します」と、数十個も入ったたわしの袋を頂いて帰りました。

お寺に帰ると妻が、「まあすごい!お参りの方にももらっていただいたら?」と言い、お檀家さんたちにお配りすることになりました。するとお檀家さんたちが「これ、本当にありがたいわあ。お墓の掃除にとっても良いのよ。」と喜んで持ち帰ってくれました。私が「千津さんありがとう。みんな喜んでもらってくれてよ」とお礼の電話をすると、千津さんは「感謝感謝。何も出来ないと思っていたけど、みんながよろこんでくださるならこれほど嬉しい事は無いよ。まだまだいっぱい作るから、もらってくださいね」と喜んでくださいました。

それからしばらくして、地域の墓苑に行った時のことです。墓苑のあちこちにまるで花でも咲いているかのように、毛糸で編んだ赤や黄色のたわしが見られました。それは、あの「千津さんのたわし」でした。「布施」、「施す」といっても、お金や物ばかりではありません。「布施」という言葉が意味するところはもっと広く、行動や考え方によっても布施は行なえるのです。「誰かのお役に立てるなら」という千津さんのたわしが、「ありがとう」とみんなの手元に届き、「あたたかな お参りの姿」になっています。「三輪空寂」のこころの姿が、まるで花を咲かせているかのようでした。